

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190104279		
法人名	社会福祉法人高佳会		
事業所名	長森いきいき倶楽部ラシックグループホーム		
所在地	岐阜県岐阜市北一色10丁目38-1		
自己評価作成日	令和7年1月5日	評価結果市町村受理日	令和7年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2190104279-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和7年1月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ハード面としてはサーカディアン照明や仕切りを用いた空間などで落ち着ける空間作りになっています。居室はゲストに合わせた家具をお持ちいただいています。ソフト面として、食事を食材から作成し、調理や食事を楽しんでもらえるようイベント食や嗜好への配慮を行い食のご満足に努めています。個別ケアと共に尊厳への配慮した言葉遣い・対応を法人方針として取り組み、サービス提供を行っています。また、ICT化として見守りカメラ、眠りスキャンを導入することにより、ゲストの安全確保と共に、職員の業務負担軽減につなげるほか、タブレット導入により、記録時間の軽減・紙媒体の削減にも取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関を入ると、ホテルのロビーのような落ち着いた雰囲気のある事業所である。3階のホールは2ユニットの中央にあり、両方の居室を見渡すことができ、照明は利用者の体内リズムを整えられるサーカディアン照明が使われている。近隣住民であった利用者も多く、地域の中で互いに声をかけやすい関係も出来ている。昨年、法人内で異動があり、他施設からの異動職員の能力を見極め、それを活かせる場に配置した事で、職員は、いきいきと業務に取り組んでいる。ホーム便りには、新・管理者の挨拶と共に、利用者の写真を中心に掲載し、家族に親近感を持ってもらえるよう工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼で唱和している。理念「ゲストに満足と笑顔」を念頭に置き、利用者に寄り添い傾聴やケアを行っている。また「地域に安心と輝きを」として、ご近所の方とすれ違う時には挨拶をかわし、また地域の方の見学問い合わせや入居も頂けている。	理念は、利用者に向けた文言と、地域に向けた文言を明確に分けて示している。地域住民の家族が介護相談に訪れ入居した事から、周辺の利用者も増えている。面会や散歩中の挨拶などが増えたのも、事業所の存在が、地域住民の安心感に繋がっていると思われる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に法人として加入し、春の祭りには子ども神輿も事業所に来てもらえている。事業所周辺に住まう方の入居も多く「近い」を理由に入居して頂けている方や知人面会もある。散歩時にはご近所様とご挨拶など出来ている。	自治会に加入している。看護学校の実習受け入れや、近隣住民が介護相談で訪れるなど、事業所への理解や応援が増えてきている。親が90歳を過ぎると、子供も70代となり、近くの事業所が便利との声を聞くことが出来ている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に法人内事業所にて合同で開催し、行政、包括、民生委員に参加いただき、各事業所の取組事例を紹介し、ご意見等頂いている。11月会議より利用者にも出席して頂き意見をいただいている。	前回の目標達成に向けての取り組みとして、11月の運営推進会議は利用者の参加を得て、開催できている。また、管理者は介護保険に関する質問等で、度々市役所に出向しており、顔馴染みとなった事で、市職員の事業所見学に繋がっている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を中心に、事業所で行われた実績報告。また災害情報報告など問い合わせにも速やかに対応するほか、管理者の変更などもあり、申請事や認定の届、感染報告なども都度報告実施している。	管理者の交代があった為、実績報告をはじめ、申請手続きや認定の届け出、感染報告等で行政へのきめ細かな連絡と報告を行っている。行政職員とも顔馴染みとなり、来訪の機会を得、ホームの実情を伝えて連携強化に繋がっている。	今まで、運営推進会議に行政の参加を得られていなかった。今後は、地域密着型サービスの現状を把握して貰うためにも、運営推進会議に行政の参加を得る工夫に期待したい。
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	眠りSCANを導入にて、心拍、呼吸状態を含めた睡眠データを全入居者計測記録している。起床・不眠の状態把握が出来、体動時には声かけを行い、随時対応を行う事で、転倒予防も含めた個別対応を行う事で拘束廃止が行えている。	管理者の交代があり、身体拘束防止の為の書類が整理されておらず不足部分はあるが、職員に研修資料を配布したり、eラーニングを利用するよう指導している。利用者の転倒予防の為の「眠りスキャン」導入や、転落によるケガがないようベッドを低床にしたり、マットレスを敷く事を徹底している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ゲストを敬う声かけを法人として指針に上げており、その取り組みから職員姿勢のベースが定められている。研修にて、不適切ケアを含めた虐待防止を学び、法人方針に沿うべく取り組んでいる。	虐待防止に関する外部研修を受け、レポート提出を原則としている。業務中に不適切ケアがあった時は現場で管理者がその都度注意し、改善に繋げている。運営規定にも虐待防止に関する項目を明記しており、全職員への周知徹底を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ゲストへの声掛けを丁寧に行う事で、自己決定を行う機会作るほか、個々の暮らしを支援する工夫をしている。家族からの問合せでは管理者と相談担当職員が主として接し、要望や思いを聴き、対応を行っている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約時、契約書と重要事項説明書に沿って十分な説明を行っている。入居後の問合せに関しても、都度対応を行える体制を作っている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に取り組みを「便り」としてお伝えし、また定期連絡を行い、ご家族とケアについて相談をおこない計画作成に役立てている。また本人の思いが聞き取れない場合でも表情を確認しながら本人の意志や嗜好を推測し計画に活かしている。	毎年、家族に向けてのアンケートを実施し、意向を把握している。毎月発行の便りでも事業所の取り組みを伝え、現在は、家族との外出や面会、居室への入室をも可能とし、訪問時には、直接、意見や要望を聞いている。	家族が事業所と関われる機会を増やせるよう「家族会」の立ち上げの提案や、利用者、家族、職員合同での食事会開催など、自由に意見交換ができる機会作りに期待したい。
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ゲストの処遇に関してはカンファレンス会議、又、課題が生じた際に現場で意見交換し迅速に対応している。11月より1on1の実施にて職員と面談を行い、職員の思いを聞ける機会を設けている。	管理者は全職員と個別面談を行い、思いを聞いている。職員から、介護の質の統一化を図りたいとの提案があり、ミーティング回数を増やして情報の共有化を図っている。職員の入れ替わりで、一部出来ないこともあったが、現場で意見交換しながら取り組んでいる。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	面談の時間を作り、適切なアドバイス・助言や相談できる環境作りに取り組んでいる。家族の状況により勤務希望が生じた際にも、相談により対応を行っている。	個別面談により、職員一人ひとりの思いを聞く中で本人の希望や能力を見出し、活かす事で働く意欲の向上に繋げている。休憩時間の確保や有休暇の管理も適切に行なっている。職員の家庭の事情も配慮し、シフト調整等の希望に応じている。	
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得やeラーニングによる研修にてケアの振り返りや基礎力・根拠に基づいたケアが行えるよう取り組んでいるほか、現場でOJTを行い、ゲストに寄り添ったケアが行えるように取り組んでいる。	資格取得や研修受講に関しては、法人が率先して取り組み、研修日は出勤扱いとし資格手当の支給もある。また、日々の現場でOJTを行ない、職員のスキルアップを図るなど、利用者一人ひとりの状態に寄り添ったケアを行えるよう指導している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で定期的に異動があり、各事業所間の職員交流も行えている。また、法人全体でeラーニング研修に取り組んでいるが、現場指導に併設事業所職員も関わるような仕組みになっており、意見交換が行える仕組み作りになっている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	オープンキッチンを活かしゲストに調理や片付けに係ってもらうほか、掃除やシーツ交換、洗濯たたみなど日常生活として関わりを持ってもらっている。また新入居者自、ご家族ご本人にゲストを紹介させていただき、共に生活する関係作りを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にゲストの生活歴を詳しく聞き取り、情報を共有しケアにつなげている。不安や困りごとなど、お話をしっかり聞く時間を設けるほか、ご本人との対話・ケアから出来る事・できない事を見極め、不安を取り除くケアに努めている。	担当者は、リハビリパンツのサイズを本人に直接、確認したり、風呂の湯温や好みのお入浴剤を選んでもらうなど、細かな対応で支援している。入居時に、今までの生活歴などを家族に聞き、好みの生活スタイルや食の好みを把握した上で、本人本位の支援に繋げている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族来館時等の要望やゲストの気持ちをサービス担当者会議や計画作成に活かしている。またモニタリングを行い、新たな計画へ展開できるよう努めている。	関係者が一堂に会する機会を設けることは難しいが、家族の訪問時にケアプランの説明を行い、意向を聞きながら介護計画に反映させている。また、担当職員のケア記録、主治医や看護師の記録など、情報を参考に見直しを行なっている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には、ゲストの様子や過ごし方を記録して、身近に支えるスタッフがわかる事実や気づきを記録に残している。担当職員がモニタリング記録して介護計画に活かしている。	利用者の様子や支援記録はタブレット端末に入力し、介護日誌には、担当者が手書きで書き足しながら、介護計画に沿ったサービスの提供に努めている。外国人職員には、利用者をケアする職員の実践状況をモニター映像で見せながら、具体的な説明も行なっている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ゲスト体調やご家族要望に合わせ、主治医の選択、歯科・眼科の往診や訪問看護、訪問リハに対応頂いている。各サービスと情報を共有するほか、医療面で相談出来る併設訪問があり、ゲスト・職員共に安心できる体制になっている。	主治医の往診以外にも、歯科や眼科の往診、訪問看護や訪問リハビリ等、利用者・家族の要望に合わせて対応している。併設の訪問看護ステーションで医療面での相談ができ、家族の安心に繋げている。夜間は特養の看護師が対応できるようにしている。	

岐阜県 長森いきいき倶楽部ラシック

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策もあり現在は出来ていないが、今後はコミュニティセンターの利用などを再開していく予定。 地域の方の入居もあり、知人やご近所の方の面会など継続頂けている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々の記録を活かし往診日に事前にFAX連絡して、ドクターと情報共有するほか、特変時には、併設事業所訪問に事前相談するなどし、主治医への依頼や対応がスムーズに行える体制になっている。	往診を受ける際には、日々の利用者の様子を主治医に伝え、情報共有している。併設の訪問看護ステーションでも、医療に関する相談が気軽にでき、主治医への情報提供をスムーズに行なうなど、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療連携をしている各主治医の紹介の病院に受け入れて頂いている。法人規定書式の医療連携サマリーを作成し、入院先に繋げるほか、入院先ソーシャルワーカーと連携し状況・状態の把握に努めている。	入院時には、各医療機関と連携しスムーズな対応が出来る。緊急時は、救急隊員に手渡せるよう、利用者情報等をサマリーとして用意している。退院カンファレンスには管理者が出席し、退院後のリハビリが必要な時は、適切に対応し支援に繋げている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より終末期思いを聴き取りし、ゲスト・ご家族の思いを尊重できるように努めている。ADLの低下が見られ始める毎にご家族と相談し、主治医・訪問看護師との連携をして看取りケアを行っている。	全職員が看取り研修を受け、看取り加算を算定している。入居時に、重度化・終末期の迎え方について家族に説明している。認知度が上がった事で、本人や他者のケガに繋がるようなことのないよう、主治医や家族と相談し、対応を決めている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを元に、スタッフへ周知徹底している。また、緊急連絡先リストや対応マニュアルをファイルにしたものを電話横に設置する事で、職員が連絡、応援要請・対応がスムーズに行えるようにしている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練(BCP訓練)の実施、災害時に備えている。非常時の食料や飲料水は備蓄しており、定期的に確認。運営推進会にて訓練状況を報告し情報共有するほか、災害時連絡先には地域にも自動で入るよう協力を得ている。	年2回の避難訓練のうち、1回は消防署の参加を得て実施している。防災備品の確認や備蓄食品ローリングストックは、担当者が行っている。防火扉の前に物を置かないことや、ホームが3階にある為、緊急時はルーフバルコニーで待機し、スロープで避難としている。通信障害時用のトランシーバーも用意している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ゲストの生活歴を把握し、言葉かけ・言葉遣いを大切にしている。尊厳を重視し、プライバシーへの配慮にも法人の指針や研修から声掛け・対応の指導や学びを行っている。	排泄や入浴等の個別支援も丁寧に対応している。理事長からも、日常の介護の様子は映像に残るので、常にカメラを意識してケアを行うようにと指示を受けている。全職員が接遇研修を受けているが、難聴の利用者に向けて、大声で話す職員には、OJTで適切に指導している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉遣いに配慮し、問いかけや疑問形で声かけをしている。表情や動きから思いを察し、自己決定ができるよう働きかけている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居時に生活歴や家族との関りなど背景を聞き取り、思いをくみ取れるようにする事や要望をお聞きし予定と一緒に立てるなど意思疎通状況に合わせた個別対応を行っている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好み添えるようメニューの確認、準備、食事、後片付け等を一緒に行っている。行事やイベント事には旬の食材を取り入れたメニューで提供している。嗜好品はご家族に協力・持参いただき、食べる楽しみの幅を狭めないようにしている。	食材の仕入れ、献立作成、調理までを、同法人有料施設から異動してきた料理の得意な職員が中心となって手作りしている。味、見栄え、栄養バランスも調理師並みの出来栄で、利用者のほとんどが完食している。正月の雑煮は道明寺粉を使って呑み込みやすいよう工夫している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は1日1500～1800ccの摂取になるよう声かけを行うほか、管理栄養士と共に野菜を多くしたバランスの取れたメニューを作成している。たんぱく質を重視し、血液検査の結果を基に思案している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。希望されるゲストには歯科・歯科衛生士により口腔内の確認を週一で行うほか、日々のケアが維持できるよう現場職員への指導もしてもらい口腔ケアを実施している。	法人代表が歯科医師であり、口腔ケアに力を入れており、今までに誤嚥性肺炎になった利用者は出ていない。入居1か月以内に、全員の嚥下内視鏡で状態を把握し、胃ろう管理の利用者が、はちみつレベルのトロミが嚥下可能となった事例もあり、適切な口腔ケアで支援している。	

岐阜県 長森いきいき倶楽部ラシック

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表などから排泄パターンを読みとり、排泄管理を行うほか、基本トイレ誘導として対応行っている。看護師により体調確認をおこなってもらい、必要に応じた排便コントロールも行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	なるべく利用者の希望に応じた時間を提供し、異性入浴介護に難色を示される方は同性介護を行っている。また、入浴剤を選ぶようにするなど入浴の楽しみを持ってもらうほか、柚子湯など季節を入浴取り入れている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自身のペースで休んで頂くよう支援を行っている。夜間寝れない時は声掛けをし、安心するまで傾聴し入眠の手助けに努めている。眠りスキンのセンサー感知に合わせたトイレ誘導や巡視を行う事で、睡眠の妨げを回避している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がすぐに確認できるようにカルテと薬情ファイルのダブルで薬情をファイリングしている。毎日の服薬確認もダブルチェックを行い飲み忘れのないケアを行っている。	誤薬防止の為、毎回、氏名と日付のチェックを職員と利用者で確認している。処方の変更で利用者の体調に変化が生じた時は、主治医に報告し指示を仰いでいる。睡眠前に服用していた薬の作用で不安定になったケースでは、主治医に相談し中止するなど、適切な支援を行なっている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手芸など趣味がある方は好きな時間に好きな場所でやりやすいことを行っている。毎日歌や体操、散歩などで気分転換、楽しみを見つけている。	本人の希望に合わせて、周辺を散歩したり、個々の残存能力を活かして、食後の片付けや洗濯物たたみなど、できることを依頼している。利用者自身が、まだ必要とされていることを実感できるよう支援し、楽しみながら継続できるようサポートしている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の事業所周辺の散歩を行っている。外出など希望時にはご家族に協力いただき対応いただいている他、自宅へ帰省するなどご本人の馴染みを維持して頂いている。	近隣を散歩したり、家族と共に外出や一時帰宅も可能としている。面会や居室への入室も可能とし、家族の安心に繋がっている。春には花見ドライブや気分転換を図れる外出支援を検討している。	

岐阜県 長森いきいき倶楽部ラシック

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルを防ぐ目的にて、お金の持ち込み、預かりは行っていない状況。希望がある場合は、ご家族と外出いただき購入いただいている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者も見え、家族や知人に連絡を取れる環境にあります。施設の電話を使い、家族等とお話される方もいます。施設に手紙が届くのでその都度手紙をお渡ししています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースにオゾン発生装置を設置しており、ウイルスの感染予防対策を行っている。照明に関してもサーカディアン照明を採用し、体内リズムを整え、質の高い睡眠と日常を保って頂いている。	建物内の照明は、すべてサーカディアン照明の採用で利用者の体内リズムを整えるなど、穏やかで居心地の良い環境となっている。各フロアーにトイレが2つ、浴室は機械浴があり、重度化した場合の対応も可能となっている。利用者の作品は建物の構造上、壁に貼るスペースが限られ一部のみとなっている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自然が見渡せ、気の合った利用者同士が過ごせる場所があり、事業所内を個々に過ごしていただいている。マッサージ機や本、雑誌も設置しており、余暇としても過ごしていただいている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはエアコン、洗面台、ベッド等設置している。本人や家族と相談しながら使い慣れた家具や洋服等をなるべく持ち込んで頂き、1人1人に合った好みの空間を作っている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレにはトイレマーク、各居室のドアには名前が貼ってある。混乱される方には矢印で分かるように配慮を行っている。タンスには物品の収納場所がわかるようテプラで表示して自立できるようにしている。		